

図書館の こんなこと知らなかった ⑩

データベース活用のススメ

大学院 博士前期課程 異言語・文化専攻 澁谷 竜昇

本学図書館の業務に携わらせていただいて数ヶ月が経つ。図書館の業務を多角的に知ることができる貴重な経験をさせていただいていると感じている。その中で、それまで知らなかったような図書館の新たな利用法を見つけることも多い。そのひとつがデータベースという「情報」を使いこなすということである。

「情報化社会」との呼称はあまりにも一般的になりすぎたが、現代社会において、瞬時に必要とされる情報を的確に得ることは、求められる技術のひとつである。研究や学業の世界においても同様である。本学のWEBページからアクセスできるデータベースは、瞬時にかつ的確に情報を求めることができる有用なツールとなろう。本学図書館のWEBページのトップ画面に「データベース検索」という項がある。ここから雑誌・新聞記事、辞書・辞典類といった外部データベースの検索が可能となっているのである。辞書・事典検索であれば、一般的な国語辞書、英和・和英辞書はもちろんのこと、百科事典や現代用語、新語、理化学用語、ビジネス用語等の検索も可能である。これらの辞書・辞典に収められている膨大なデータを横断的かつ瞬時に検索できることは、まさにオンラインの強みであろう。さらに、研究に携わる者にとってみれば、専門分野における最新の理論に触れておくことは、各々に課せられている任務のひとつといえよう。本データベースからアクセス可能となる国内・海外の雑誌データベースからは、掲載されている記事や論文等を瞬時に検索、閲覧することができるのである。情報化社会において求められる瞬時性、正確性を求めるという観点に立てば、上述したツールを活用することは、多くの有用性を見出すことができる。

我々の周りに「情報」が溢れている現代社会。情報を如何に収集し、取捨選択できるかという能力が常に問われているということを感じるのは筆者だけではあるまい。アナログ形態ともいべき紙媒体が主流であった図書の世界にも確実にデジタル媒体が進出しつつある。そういった観点から眺めれば、図書館とはまさにアナログとデジタルが共存する空間とも言えよう。一見すると背反するようにも思える両者を如何に活用するか、「アナログ的存在」である我々の手腕が問われるところである。「こんなこと知らなかった」では済まされなくなる時代が必ずや来る。